

報告事項セ

良田平田遺跡で出土した木簡について

良田平田遺跡で出土した木簡について、別紙のとおり報告します。

平成25年3月16日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 良田平田遺跡で出土した木簡について

平成25年3月16日  
文化財課

## 1 概要

- 今年度の山陰道鳥取西道路建設に伴う発掘調査で、良田平田(よしだひらた)遺跡(鳥取市良田)から飛鳥時代の終わり頃(7世紀末～8世紀初頭)の木簡が出土。細長い木の板の両面に墨で文書が書かれているもの。
- 文書が書かれた木簡の例としては、中国地方最古のものとなる。
- 古代の地方行政を考える上で貴重な発見。
- 3月6日(水)から10日(日)まで県立博物館で一般公開を実施。

### 年代の根拠

- ・木簡が出土した穴の時期が、飛鳥時代の終わり頃(7世紀末～8世紀初頭)であること。
- ・書かれている文書の書式が、大宝令(701年制定)施行以前に多用されているものであること。

※中国地方から出土した7世紀末頃に遡る可能性のある木簡は、出雲国庁跡(島根県)出土例が知られるが、何を目的とする木簡であるかは明らかでない。

※日本最古の木簡は、福岡県太宰府市の国分松本遺跡から出土した7世紀末の木簡。

## 2 木簡の概要

- 木簡が出土した良田平田遺跡の性格  
古代の役所に関連する遺跡。これまでの調査で、木簡、硯、銅銭「和同開珎」など役所遺跡に関連する遺物が出土している。
- 木簡の出土状況：径約70cm、深さ45cmの穴から出土。木簡は2つに折れた状態で穴に捨てられていた。
- 木簡の大きさ：残存している長さ18.7cm、幅2.5cm、厚さ0.5cm
- 木簡の内容：役人による口頭伝達の内容を文書化したもの。大宝令以前に多用された定型文で書き始め、あなほべのじき(なほ)まろ孔王部直万呂という人物が物品の受け取り等の要件の使者で、お昼頃に文書が発出されるという内容が記されている。



### 3 木簡の文面

〔表面〕 「□ □ □ 御前 □ (謹?) 白 寵 命 □」

(釈文) □□□(人名か)<sup>おんまえ</sup>の御前に<sup>つつし</sup>(謹みて)<sup>もう</sup>白す、<sup>ちようめい</sup>寵命□

※□は木簡の釈文表記に係る符号で、欠損文字のうち字数が推定できるもの

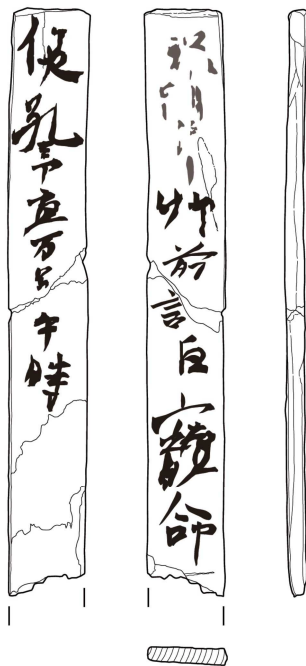
※「御前□白」は大宝令以前に多用された書き出しの書式、「寵命」は「上役の命令をお伺いして」の意

〔裏面〕 「使 孔 王 部 直 万 呂 午 時」

(釈文) <sup>し</sup>使、<sup>あなほべのじき(なお)</sup>孔王部 <sup>まろ</sup>直 <sup>うまのとき</sup>万呂、午時

※「使」は、要件の使者の意、「孔王部直万呂」は人名、「午時」は正午前後の時間帯

#### 良田平田遺跡出土木簡



実測図



赤外線写真



カラー写真